

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

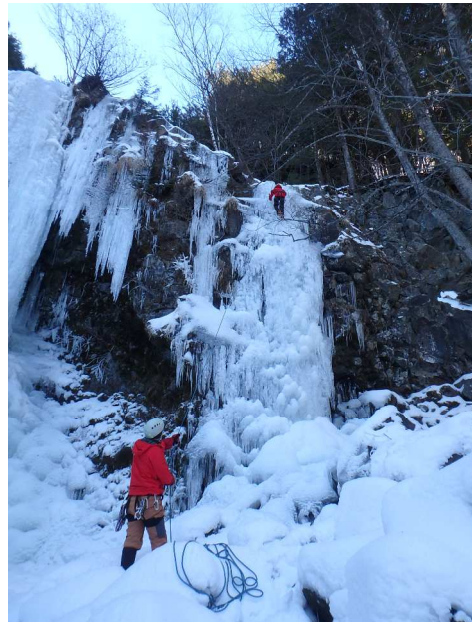
## あったかいんだからぁ・・・

今年の年明けは、なんと新年早々我が家の回りで落の臺とほころびた梅の花まで発見。こんなこと、これまでの半世紀を超える人生の中でもはじめての経験。そんな暖冬の中、大町高校の年末年始は、12月27日が年度納めの鷹狩山山行、新年始めは4日がアイスクライミングで5日が日帰り登山。いずれも冬とは思えない陽気と小雪でとまどった。

前号でご報告した耐寒ビバークの際に、雨引山頂で山岳部歌を歌い忘れ、これでは一年が締まらないと、急遽体力錬成と登り納めの名目で鷹狩山へ。12月になって入部した新入部員一人を含む部員全員が参加するという豪華キャスト。登り始めは前年の雪がうそのように、全く雪がない。中間部の日陰で少し雪が現れたがせいぜい1cm。1000mでようやく2cm程度。新春山行に向けての雪上歩行訓練もとの目論見も叶わなかった。しかし、せっかく登ったのだから、何かしたいよねと、ちょっと藪山気分を味わうために、登山道の南側の沢を道を外れて下った。地形把握の練習。普段見慣れた風景とは一味違う景色に脱日常を感じて一年を納めた。

新年早々暖かくて天気の良い日が続く3日を、箱根駅伝を見ながらのんびり正月を満喫。4日、新年の皮切りは昨年同様にアイスクライミング。生徒4名を連れて158号から別れ、乗鞍線にはいるも、周囲の山には雪のゆの字もない。前日は松本でも15度と3月下旬の陽気、「これじゃ氷は解けてるんじゃないの？」という妻のことばに「そうは言っても乗鞍だから」と家を出ては来たものの、不安がよぎる。

乗鞍スキー場はおろか高天ヶ原にもブッシュが散見される。目指す善五郎の滝は、正面はジャージャーと音を立てて流れている。しかし、右の小滝がかろうじて氷っていた。早速同行を頼んだ大町山の会の山内一成氏とトップロープを張るために、右の岩場から回り込んだ。ここは日陰なので、例年は震えながらのクライミングで終わった後の温泉が何よりの楽しみであるのだが、この日は風



もなくポカポカ陽気で逆に快適。いずれも初めての生徒ばかりであったが、次から次へとそれぞれに5本くらいずつ登り、気が付いてみるともう2時を回っている。あっという間の4時間だった。

翌6日は、2人欠席の8人が参加しての新春初山行第2弾。登ったのは松本市の東山、鉢伏山

(1928.8m) 千石集落から入り、牛伏寺へ下りてくる縦走だ。いつもなら名前のごとく真っ白く鉢を伏せたようなこの山も、下からみても雪のないのが見て取れる。今回の山行の目的は、1月下旬の雪上生活体験の前段階としての雪上訓練だったが、全く



当てが外れた。9:15 登山口出発。暑くもなく寒くもなく、快適な登山日和。雪がないため、予想よりかなり早く、2時間強で上部の車道へ抜けた。例年ならば、中途半端に雪がついていて歩きにくい車道には雪は皆無で、極めて歩きやすい。まずは前鉢伏山に向かうと、なんとなくっすら積もった雪の上にはここ数日の間に来たとおぼしきMTBの車輪のあとがくっきり。恐らく高ボッチ方面から登って来たのだと思われるが、驚いた。11:20 前鉢伏山。生憎自慢の松本平を眼下にした北アルプス方面のパノラマは拝めなかったが、青空をバックに生徒諸君は絶好調(写真参照)。昼は主峰鉢伏山でと、踵を返す。11:55 鉢伏山三角点。そこから200mほど南東に進んだ頂上台地の端が私のお気に入りの場所。ここは不思議なことにいつ行っても風がない上に、眼下には諏訪湖、その後ろに富士山が大きく望める絶好のビューポイントだ。雪はわずかに残ってはいるが、雪のないところは乾いている。正月の信州の2000m近くの山で、草地に腰をおろして休憩ができるなどは、まさに想像すらできない事態。

残念ながら富士山は望めなかったが、お茶を沸かして飲み、まったくとした気分で昼食を食べた後、八ヶ岳を見ながら新年最初の山岳部歌を轟かせた。下りは、敷きつめられた落ち葉をかき分けながら、牛伏寺まで下山した。ラッセル訓練どころか、落ち葉のラッセルになるとは、・・・全く予想だにしない山行と相成った。



そんなわけで、人気の朝ドラ「あさが来た」ではないが、まさにビックリポンの年末年始だった。

ともあれ、皆様にも輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年も一年間お世話になりました。本年もよろしくお願ひ申し上げます。お互いに良き山行を！